



響け！ 吹奏楽

2019年4月、
音楽領域にウィンドアカデミーコースが誕生

Feature

Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OB

吹奏楽に魅せられて

片桐健輔

NUA-Student

芸術学部芸術学科 音楽領域

弦管打コース3年生

若谷莉奈

News/Topics

ニュース&トピックス

音楽領域

- 名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ 第37回定期演奏会を行いました
- 本学吹奏楽クラブによる サマーコンサートを開催しました
- サウンドメディア・コンポジションコース公開講座 「マイクrohンの世界」を開催しました

美術領域・デザイン領域

- 2018年度 前期交換留学生作品展を行いました
- みんなが芸大生になる日 「一日芸大生」を開催しました
- 国際交流「子ども芸術教室」を開催しました

名古屋芸大グループ校特集

- 名古屋音楽学校

コラム NUA

「身近なものに改めて出会う

—写真絵本の楽しみ—

芸術学部芸術学科 芸術教養領域

准教授 早川知江

Master Artist

マスターアーティスト

思うように生きる

音楽領域 弦管打コース

准教授 遠藤宏幸

Information

インフォメーション

- 出版
- 2018年度 オープンキャンパス日程
- 2018年度 音楽領域演奏会スケジュール (予定)
- アート&デザインセンター 2018年度 展覧会スケジュール (予定)

45
October
2018
通信

グループ



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学 / 大学院 音楽研究科 芸術学部 芸術学科 ■名古屋芸術大学保育専門学校
 美術研究科 音楽領域 デザイン領域 ■名古屋芸術大学附属クリ幼稚園
 デザイン研究科 美術領域 芸術教養領域 ■滝子幼稚園 ■たきこ幼児園
 人間発達学研究科 人間発達学部 子ども発達学科 ■愛知保育園 ■名古屋音楽学校

Feature

2019年4月、
音楽領域にウインドアカデミーコースが誕生

吹奏楽 響け！

2019年度、音楽領域に新たなコース、「ウインドアカデミーコース」が設置されることになりました。ウインドアカデミーってどんな意味？と思われる方もいらっしゃると思いますが、簡単にいえば“吹奏楽”。中学生、高校生には人気の部活動である吹奏楽ですが、それを専門的にしっかり学ぶためのコースとなります。これを機会に、吹奏楽が誌面をジャック。特集も学生も先生も、今回の名古屋芸大グループ通信は、吹奏楽オンパレード。吹奏楽に係わる人たちに聞く吹奏楽の魅力です。特集では、文字通り子供の頃や学生時代からずっと吹奏楽に係わり続けてきた吹奏楽の達人ともいえるお二人に、吹奏楽の魅力と新設されるウインドアカデミーコースについてお伺いしました。



「吹奏楽、好きだった」で、終わらせない。



楽器に向き合い、多くの時間を費やしてきたあなたへ。

名古屋芸術大学で、吹奏楽が大好きなあなたの、次なるステージが始まります。

さまざまな楽器の奏法を学ぶ

木管・金管・打楽器の奏法、指揮について4年間かけて研究。集団レッスンで切磋琢磨しながらも個人の進度に合わせて学べます。



【演奏を学ぶ主な楽器】
木管(フルート、クラリネット、サクソなど)・金管(トランペット、ホルン、トロンボーンなど)・打楽器(ドラム、ティンパニーなど)

指導者・ディレクターとしての能力を身に付ける

吹奏楽アンサンブルの基礎から学び始め楽曲の表現方法について研究しながらそれを指導する力を養っていきます。また、実際の現場で役立つ編曲についても学びます。



専門的な管楽器リペアを学ぶ

各学年で半期ずつ楽器の修理とメンテナンスを学びます。将来、楽器業界や楽器販売店への就職時にも役立つ技術が身に付きます。



録音・音響技術の習得

充実した設備の中、早い時期から現場を体験できます。レコーディングとPAの基本的な技術を身に付けるとともに、芸術的に優れたサウンドについて追究できます。



一般教養とボーダレスな芸術教育

本学では、一般教養にも力を入れていきます。また、音楽領域だけではなく美術・デザインを横断的に学ぶことができるため、将来の可能性を大きく広げられます。



吹奏楽の達人に聞く

吹奏楽の魅力とウインドアカデミーコース設立の狙い



音楽領域主任
ファゴット
依田嘉明教授

ソリストとして、2013年セントラル愛知交響楽団とモーツァルトの協奏交響曲、2014年と2016年にウクライナ・チェルニーゴフフィルハーモニー交響楽団とR. シュトラウスの二重小協奏曲、ヴィヴァルディのファゴット協奏曲、2015年北名古屋シティ管弦楽団とウェーバーのファゴット協奏曲の演奏を行う。オーケストラの客演奏者や室内楽、また岐阜県交響楽団や大垣室内管弦楽団等のトレーナー、三重県立白子高校吹奏楽コース非常勤講師など、幅広く活躍中。これまでにファゴットを谷島卓、岡崎耕治、山畑馨、ローランド・スモール、ジョン・モスタード、またアフィニス夏の音楽祭にてフォスター・テスマンの各氏に師事。



吹奏楽指導・コース主宰
サクソフォン
遠藤宏幸准教授

サクソフォーンを石渡悠史、岩本伸一、雲井雅人の各氏に師事、室内楽を、服部吉之、服部真理子の両氏に師事、指揮法を橋本久喜氏に師事。2001年岐阜メルサホール、2003年、2004年、2014年名古屋ザ・コンサートホールにおいてソロリサイタルを開催。2014年参加するアリオン・サクソフォン・カルテットとしてファーストアルバム「Arion's Harp (FLCP-210027)」をリリース。サクソフォン奏者として活動する傍ら、吹奏楽指導者としても多くのアマチュアバンドを指導。短期大学准教授を経て、アリオン・サクソフォン・カルテット、トリオ・ウイステリア各メンバー、ウインドアンサンブルGAJA(ガヤ)代表、ユニータ・デラ・サクソ代表、ルロウプラスオルケスター(小牧市)常任指揮者。

吹奏楽は熱い!

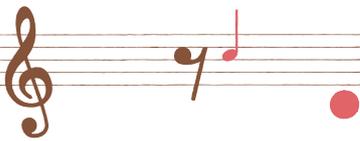
吹奏楽の人気の高まりを感じます。全日本吹奏楽コンクールの広がりや高校吹奏楽部を舞台とした小説も人気です。吹奏楽部がアニメ化されるなんて隔世の感がありますね。

遠藤：“熱い”ですよ！ 文科系なのに、体育会系というノリですね。ドラマチックな部分がかっこあるんだと思います。アニメになったり、テレビ番組で取り上げられたりするのも、吹奏楽のコンクールが、高校野球甲子

園のように広まり、意外と地味じゃないんだなということを知ってもらえたのではないかと思います。最近では、甲子園での応援の演奏がすごく注目されていて、ブラバン甲子園というイベントとCDのシリーズ(<https://www.universal-music.co.jp/braban-koshien/>)があります。吹奏楽も優秀で野球も優秀な学校が集まって演奏会といいますが、甲子園の応援の演奏をやるんです。見に来られるお客さんも、音楽会とは全然違うんですよね。普段、野球が好きで、甲子園で初めて

吹奏楽のエル・クンバンチェロだとか、アフリカンシンフォニーだとか、こうした楽曲を知る。SNSとか、今時の情報量の流れ方です。吹奏楽関係じゃない人たちにも普及してきているなと感じます。

依田：僕の個人的な思いなのかもしれませんが、ひとところよりも吹奏楽というのは落ちてきたと感じています。A編成(大編成高校、大学では55名以内)で出ているところがB編成(中編成、35名以内)になったり、少子化なんじゃないかな。それから、女性が



増えてきましたね。コンクールの審査員に行っても男子を見かけることが減ってきました。チューバとパーカッションにいてだけで、あとはみんな女の子だったりしています。僕らが学生の頃は、男がすごく多かった時代なので、ちょっと変わってきたなと感じます。人数は減ったところもありますが、“熱さ”は変わらないですね。

—以前なら、野球の応援のなんかだと、吹奏楽部は嫌がったりしたものですよね？

遠藤：それが、実際、応援に行くと燃えるみたいですね！（笑）その熱がそのまま、吹奏楽の熱い部分になってます。僕は、そのままエネルギーを持って、大学に来てもらえれば一番いいのかなと思ってますよ。

—男の子が少なくなったところが気になりますね

遠藤：そうですね。そこは問題ですね。
依田：チューバを女の子が吹いてたりしますからね。以前なら男子が担当するのがイメージでしたけど。最近は女の子が圧倒的に多い。少しやっぱり少子化なんでしょうか。
遠藤：今は吹奏楽、女子高で力のあるバンドが多いです。
依田：今年も東海地区で、全国大会に行ったところには最近共学になったばかりの学校もありました。それまで女子校だったんですよ。

遠藤：福岡の精華女子高校というところだったり、女子校がすごく頑張ってますね。女性のほうが、真面目に取り組むというところもあるかとも思いますが……。

依田：粘りもあるのかなあ……、男の子だと、飽きっぽかったりしますしねえ。

名芸の吹奏楽は真面目!?

—名古屋芸大の吹奏楽の特色みたいなものはありますか？

依田：どう？
遠藤：専任になってまだ半年なんですけど、合奏していると、ちょっと大人しいかなという感じはしていますね。すごく真面目なんです。冗談がいいにくい。前に立ってて、今ここで冗談をいっても絶対笑ってくれないだろうなと（笑）。まだ、僕もコミュニケーションが足りないのかも。非常に真剣に取り組んでいってくれますが、もうちょっと開放的に

なってくれたらいいなという感じを持ってます。

依田：真面目といったら真面目なのかもしれないですね。去年から名誉教授になられたヤン・ヴァン・デル・ローストさん、僕が名古屋芸大に務め始めた年からローストさんも係わり始めて、教員としては、たぶん同級生なんです。ローストさんは作曲家ですので、ご自分の作品をずっとやってこられて、CDもたくさん出ています。特色といったらそういうことをやる学校というのは、ほかにはなかったと思います。普通なら、録音は4年に1度とか、在学中に1回あるかなという程度だと思いますが、ローストさんは10年以上やっています。録音スタジオもあるし、そういう環境がそろっていたということもありますね。

遠藤：そういう経験があるから合奏に取り組む姿勢も、真面目というか、真剣なのかもしれませんね。レコーディングって本当にきついですからね。ミスできないというので、かなり精神的にも追い込まれます。

依田：朝9時に始めて夜9時までとか、ありましたからね。1曲2曲録るだけではなくアルバム1枚作るとなると、1日、2~3曲はやります。その間ずっとミスというのは許されませんから。難しい曲になればなるほどミスはしやすくなりますし、長い曲であれば後半ポロポロになってきちゃいます。そんな中でも精神力を保ちながらやっている、そういう意味では鍛えられているのかもしれないですね。



遠藤：自分のミスでこのテイクが駄目になったらどうしよう、ってそんな感じですからね。

依田：しかも必ずDe Haske っていうオランダのレーベルなんですけど、De Haskeの社長がレコーディングに来ていましたから、とりわけ緊張感があります。そう思うと、結構な環境でやっていましたね。

遠藤：今年から僕も担当するようになって、これからまたカラーが変わっていくのかなと思っています。

名誉教授
ヤン・ヴァン
デル ロースト



ルーヴェン（ベルギー）のレメンス音楽院で徹底した音楽教育を受け、トロンボーン、音楽史、音楽教育の3つの学位を取得。ヘントとアントワープの王立音楽院で研究を続け、作曲と指揮の学位を取得。作品のジャンルとスタイルは多岐にわたり、交響曲、協奏曲、オラトリオ、児童歌

キャリア教育
大内 孝夫



9/29(土) 全学オープンキャンパス 講演会

「音楽の学び社会でどう生かすか
—名古屋芸術大学卒業後の進路について—」

真面目であるより魅力的であれ

芸大の卒業生こそ、社会に対して大きな価値を持っています。社会の課題として、答えのない問題に答えを探さなければならないということがあり、正解を求めるだけの「事実教育」では応えられず、顧客を求めることの価値を感じられる「価値教育」が非常に大事な時代になってきている、顧客価値を感じられる人間になることが芸大で養われます。

音楽を学ぶことで身に付くこととして、企業の若い世代に必要な「社会人基礎力」(コミュニケーション力、時間管理、忍耐力、丁寧さ、礼儀正しさ)、中堅世代としては「管理能力・総合力(全体を俯瞰する力、プロジェクト管理、ストレス耐性、孤独への耐性)、世代にかかわらず身に付くこととして記憶力、性差のない実力主義、歴史・文化への理解などがあり、音楽

指揮
高谷 光信



指揮を小松一彦、伊吹新一、田中良和、藏野雅彦、辻井清幸、V.ブラソロフ、E.ドゥーシェンコ、N.スーカッチ、に師事。現在までに東京混声合唱団、Osaka Shion Wind Orchestra、大阪交響楽団、兵庫芸術センター管弦楽団、



劇、カンタータ、吹奏楽曲、器楽ソロ曲などを作曲。また、ベルギー、オランダ、スイス、イタリア、アメリカ、日本、スペイン、フランス、シンガポール、オーストリア、カナダ、ノルウェー、ドイツ、ブラジル、フィンランド、ルクセンブルク、ハンガリー、コロンビア、クロアチアなどの諸国からの委嘱作品も手がけている。作品の多くは各国でラジオやテレビで放送され、世界中の著名な演奏家によって演奏、録音されている。審査員や講師、客演指揮者としての要望も多く、世界四大陸の45カ国以上を訪れて活動している。現在、レメンズ音楽院教授、名古屋芸術大学名誉教授。

慶應義塾大学経済学部卒業後、富士銀行（現・みずほ銀行）入行。証券部次長、仙台営業部副部長、いわき支店長などを経て、2013年より武蔵野音楽大学就職課勤務、会計学/キャリアデザイン講師兼務。著作に『大学就職課発!!目からウロコの就活術』、『「音大卒」は武器になる』、『「音大卒」の戦い方』、『3日でわかる<銀行>業界』など。



教育でこそ、現在求められている力が身に付きます。音楽を学ぶことは社会で生きていく上でも十分な力がつき、音大生の進路は考えている以上に幅広くいろいろな可能性があります。4年間はチャンスをつかむ期間であり、ぜひチャンスをつかんで欲しいと思います。

セントラル愛知交響楽団、瀬戸フィルハーモニー交響楽団、東京室内オーケストラ、愛知室内オーケストラ、神戸市室内合奏団などを指揮。《題名のない音楽会》(Osaka Shion Wind Orchestra 2015年11月23日放送) に出演。大阪芸術大学演奏学科 客員准教授、名古屋芸術大学、武庫川女子大学音楽学部、京都市立芸術大学音楽学部音楽教育研究会、各非常勤講師。第16回京都芸術祭京都市長賞受賞。2012年7月ウクライナ・チェルニーゴフ州文化功労賞受賞。現在ウクライナ・チェルニーゴフフィルハーモニー交響楽団常任指揮者。

部活を専門に! 吹奏楽を広く学ぶ

ーさて、ウインドアカデミーコースについてです。まず、なぜ吹奏楽のコースを設置することになったんですか？

遠藤：弦管打との違いが大きいと思いますが、弦管打はどちらかというとプロフェッショナルな方向性が強いです。各専門のエキスパートを目指すという目的で、試験内容からそうなります。高校時代は、楽器をしっかり練習したり、レッスンを受けたりしてきた人が、この先も専門性を付けて勉強していくというコースになります。

それにくらべて、ウインドアカデミーのほうは、もっと広い範囲といえますが、吹奏楽全体を学べる、指揮も含めた音楽の全体的な部分を学べるようにしたコースです。学習内容にも多様性があり、自分の専門の楽器だけでなく、さまざまな楽器をやったり、吹奏楽の指導をやったり、吹奏楽のすべてを学びましょうという考えです。いろいろやりたいと考えている人には合っているのではないかと思います。

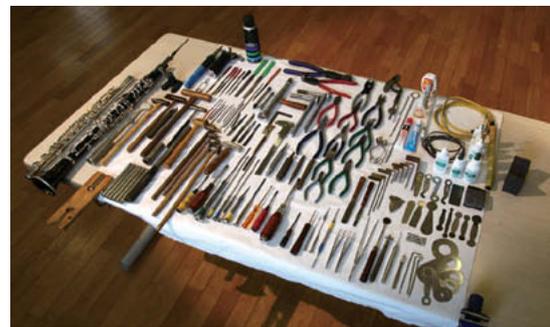
ー楽器もいろいろやるんですか？

遠藤：そうです。

依田：広く学べるといういいかたが合うのかなと思います。とにかく入り口よりも出口のことを考えたというのが、まずあります。ここで学んだことは、いろいろな分野に生かせると思います。例えば、カリキュラムの内容になるんですが、リペア（楽器修理・メンテナンス）があったり、指揮法があったり、作曲、編曲、指導もあります。例えばリペアを学んでいけば、もちろんリペアは専門的に相当に深い世界がありますが、ある程度のことができるようになれば楽器メーカーや販売店なんかも就職することが可能でしょうし、指導する立場になれば楽器のことを知っていることがとても役に立つはずですよ。

もちろん楽器の演奏もやりますのでプロを目指すこともできる、それから指揮ができれば指揮者になることも可能になるし、指導ができれば学校の先生・吹奏楽の指導者にもなれる。そういった多岐にわたった将来が想定できるのかなと考えています。今までだと、遠藤先生がいわれたように、一つのことを突き詰めてやっていくわけですよ。僕自身がそんなんですが、例えば、サクスのことがわかる

かという指使い一つわからないくらいで、自分の楽器のことは知っていても人の楽器のことは何も知らない。そういうことではなくすべての楽器を勉強していこうというカリキュラムを考えています。一通りの楽器を学ばうと。



遠藤：リペアも、楽器店も、指揮者も、指導者も、すべての楽器を把握していないとなかなかできないことです。なのでそこを勉強してもらいたいというのがあります。

ウインドアカデミーコースを作るに至ったもうひとつの要因として、卒業後、一般職も含めて考えていきたいんです。一般職に就きながらライフワークとして吹奏楽を楽しむという人もいますし、今後、働き方も変わっていくと思います。例えば、サラリーマンをやりながら外部講師をやることや、吹奏楽のバンドに入ってその中で指導的な立場に立つことなど、あるいは中学校や高校に教えに行くということも、これからは機会が増えてくると考えています。公立中学や高校でも部活を外部講師で補うという話が出てきています。音大に行ったら音楽家になるとか、なぜ音大に行ったらのに音楽家にならないのか、こういう話はよくあるのですが、僕は、法学部に行った人は全員弁護士になるわけでもないし、ここで学んだことが人間力のアップになって、それを社会へ持って行ってもらえばいいと考えています。

なるべく好きなことを勉強して欲しいんです。もちろん専門的にサクスならサクスだけを掘り下げる、こういうのもやってもらえばいいし、吹奏楽が好きで聞くことも好きだし、演奏することも好きだ、こういう人たちにもっとさまざまな視点で吹奏楽を勉強してもらえるようにしたということです。

ーファンデーション的な意味合いもありますね？

依田：そうですね。ファンデーションの積み重ねみたいなものかなというイメージはあり



ますね。しっかりベースができていないとその上というのはできないですからね。僕らの構想の中には、3年生になって、もしも特定の専門分野に舵を切りたい、例えば指揮者になりたい、リペアをやりたい、そうなったときにそれを専門的にできるようにカリキュラムの組み方をしようと思っています。ちょっと意味合いが違うのかもしれませんが、デザイン領域はそうやっていますよね。音楽総合コースもそれに近い形でやってきましたが、今の学生の傾向としては総合コースのままで卒業していくパターンが多くなってきました。ウインドアカデミーコースも、ひょっとしたら3年になってもウインドアカデミーのままでもいいよという人が多いかもしれないと思っています。こればかりは始めてみないことにわかりません。ですので、そのあたりは臨機応変に、自由に希望に添った形がとれるような仕組みを考えておこうと思っています。

吹奏楽は人間力が高い!

-将来、いろいろな方向が考えられるコースだということですね。もちろん音楽があつてですが。

遠藤：いろんな意味で、人間力の高い子が吹奏楽部には多いんですよ。コミュニケーション能力が高いとか、一つのことに集中できる力があるとか。来年度から客員教授に来ていただく大内孝夫先生が「音大卒は武器になる」という本を書かれているんです。音大生や管楽器をやっていた学生たちには力があり、それが社会の力になるということを訴えていきたいと個人的には考えているんです。

-その本には、どんなことが書いてあるんですか？ 人間力が高くなるんですか!?

遠藤：音大生は、大学生なのに!?!あまり遊ばないんですよ。練習すること、一つのことに集中する力ですね。レッスンは個人レッスンが基本ですが、今の20代の学生たちというのは大人と一対一で接する機会が案外少ないんですよ。それでレッスンを受けてる音大生はコミュニケーション能力が高い。試験、コンクール、演奏会、それに向かってタイムマネジメントができる、こういった内容が書かれているんです。

-たしかに演奏会という目的に向かってやっていく、もちろん個人の技量も磨かなければい

けないし、バンドなので協調性も必要、人間関係も複雑になっていくし、そうかもしれないですね。

遠藤：それから根気がいいんですよね。もともと大内先生は銀行員をやっていた方なんです。その大内先生がおっしゃるには、銀行員にすごく適しているというんですよ(笑)。一つのことを確実にやり遂げる。真面目で、コツコツやれるからなんですって。

-本当ですか〜(笑)

依田：吹奏楽は上下関係もきちっとしていますよ。僕は三重県の白子高校に教えに行っていますが、普通科の中に文化教養(吹奏楽)コースという吹奏楽のコースがあるんですよ。吹奏楽に完全に特化したというわけでもないみたいなんです、カリキュラムの中に演奏や個人レッスンがあるんです。以前には、学校が荒れた時期もあったようなのですが、吹奏楽部の生徒だけは礼儀正しかったそうです。挨拶がしっかりできる、年上の人に対する態度とかコミュニケーションとか、そういうことがきちっとしている。それで、吹奏楽コースを立ち上げたようなところがあるらしいです。「音大卒は武器になる」、たしかにそういうところもあるのかなと思います。状況をわきまえてきちっとできる、そんなところがあるのではないかと思います。

吹奏楽の基本は礼儀作法!?

-なんでしょう、いわゆる演奏家や音楽家のイメージって、一般的には自分本位の芸術家みたいな、ちょっとわがままなイメージがあると思いますが、吹奏楽は真逆のイメージですね。

依田：クラシックの人たちも徹底的にたたき込まれますね。特に、僕は大学に入ったときにすごく実感しました。最初にいわれたのが、挨拶をきちっとしろです。先輩にあつたらとにかく、おはようございます、失礼します、きちつといえと先輩から教わりました。

遠藤：今の時代はないですけど、昔はやっぱ飲み会がすごくって、おそらく一般大学の体育会みたいな飲み会だったのではないかと思います。楽器にもよるんですけど(笑)

依田：特に金管楽器はひどい(笑)

遠藤：後輩を育てるといふか、昔でいうところのそういう感じがありますね。

作編曲・吹奏楽指導
特別客員教授
(就任予定)
鈴木 英史



安宅賞、第11回日本管打・吹奏楽アカデミー賞(作編曲部門)受賞、外務省在外公館長表彰授与。国民体育大会(石川、山形)ねんりんびっく(石川)式典音楽、国民文化祭創作音楽(鳥取、秋田)等を担当。シカゴミッドウエストクリニック、WASBE、日スリランカ国交60周年記念事業委嘱、台湾国際音楽祭課題曲委嘱など、海外でも高い

福井県立
武生商業高等学校
吹奏楽部顧問
植田 薫



小学校時代よりトランペットに親しみ、藤島高校で全日本吹奏楽コンクールに出場。成城大学では軽音楽部で活動する他、辻仁成、桑名正博らのバンドに参加。福井県立

9/29(土)の全学オープンキャンパスで「ウインドアカデミーコース」の説明会が行われました

9/29(土)の全学オープンキャンパスで、来年度から新設される「ウインドアカデミーコース」の説明会、楽器ごと(フルート、クラリネット、ファゴット、サクソ、トランペット等)のワンポイントレッスン、大内孝夫氏による講演会「音楽の学び社会でどう生かすか-名古屋芸術大学卒業後の進路について-」、ヤン・ヴァンデルロースト名誉教授による「吹奏楽クリニック&コンサート」など、盛りだくさんのイベントが行われました。

音楽領域全体説明では、田中範康副学長から音楽領域が目指すものや音楽界と大学教育の在り方、ウインドアカデミーコースの背景などを説明がありました。

ウインドアカデミーコースの説明会では、依田嘉明教授がコースの概要とカリキュラムの特徴、卒業後の進路など紹介しました。大内孝夫氏による講演会「音楽の学び社会でどう生かすか-名古屋芸術大学卒業後の進路について-」では、音楽を通じて学ぶこと、音大で身に付くスキルなどは、あらゆる分野に応用できるものであるという内容を、さまざまなデータや具体的な事例をもとに説明する講演で、訪れた高校生や学生、さらに保護者の方々も、真剣な表情で聞き入っている姿が印象的でした。

ヤン・ヴァンデルロースト名誉教授による「吹奏楽



評価を受ける。作編曲活動を中心に、指揮、CD企画、講習、審査、音楽誌への執筆など幅広く活躍。日本音楽著作権協会正会員、尚美ミュージックカレッジ専門学校特別講師。主な作品：ライフ・ヴァリエーションズ、カントゥス・ソナーレ、鳳凰-仁愛鳥譜、大いなる約束の大地〜チンギスハーン、信長-ルネサンスの光芒、多数の編曲（喜歌劇セレクション、ニュー・サウンズ・イン・ブラス）等。作品集CD：「チャルダッシュ・カントゥス」「サーカスの女王・セルゲイモンターージュ」「光の祭典／チンギス・ハーン」。2019年4月名古屋芸術大学ウインドアカデミーコース 特別客員教授就任予定

武生東高校の開校時に赴任し、吹奏楽部を創部。19年間で全国大会に8回出場。武生商業高に異動後、小編成部門で中部日本大会、東日本大会1位を経て大編成に移行、全国大会に5年連続で出場中。一方Black Musicをベースとしたオリジナルの編曲、演出で「日本-ファンキーな吹奏楽指導者」として全国から講習会や演奏会に招かれている。福井と東京のバンドでヴォーカリスト、トークボックス/フリューゲルホルン奏者としても活躍中。全日本吹奏楽連盟理事。



田中範康副学長

依田嘉明教授

クリニック&コンサート」では、始めにコンサートマ-チ「アーセナル」を学生が演奏、クリニックでは、ワンポイントクリニックに訪れた高校生も楽器を持って加わり150名の大編成で、「カンタベリー・コラール」を演奏しました。貴重なクリニックに、高校生たちも真剣に取り組んでいる姿が見られました。150名の大編成での演奏は荘厳で、非常に素晴らしいものとなりました。

「オーケストラってほかの楽器もやっぱりそうなんですか？」

依田：弦楽器はまた別の世界があるんですよ。

遠藤：金管のほうがひどいですよ（笑）

依田：一つ上の先輩でもいまだに敬語ですよ、僕ら。タメ口なんてとてもじゃないですけど駄目ですね。そんなふうに、たたき込まれているんですよ。ただ、普通に企業に入ったら当たり前ですよ。

「たしかにそうですね。」

遠藤：ちゃんとみんな敬語をしゃべれますよね。

依田：そうやって礼儀正しくすることは、吹奏楽の伝統として今も残っているので、ちゃんとできるんだと思いますよ。

やりたいことができる、それがウインドアカデミー

「ウインドアカデミーコースではそんなところも継承されているということですね。」

遠藤：カリキュラムについては、これから固めていくところなんですけど、いろんなことができるように考えています。音大系に足りないのは、音大生は卒業してすぐオーケストラに入ると就職するというルートをとらないかぎり、一旦フリーになります。そうしたとき、セルフプロデュースや経営的なこと、仕事をもらうための営業など、そういうことが全然わからないんですよ。社会に出たら、ギャラというのはこういうものだけに始まり、自分を売り込んでいくようなことも必要です。それも含めて、学んでもらいたいなと思っています。そういう意味では、社会性とかマネージメントなんかも勉強できるようにしたいなと思っています。

依田：リペアが入ることも大きいのかなと思います。外部の方に説明したときにもその部分の説明を多く求められますね。

遠藤：それから指揮法ですね。指導法的な部分でもあります。じつはもともと指揮コースを作ろうという話がありまして、そこから派生してウインドアカデミーコースになったという経緯があります。ですので先ほど説明したように、3年以降で指揮者を希望した場合、本気で取り組めるような環境を、整えようと思っています。

依田：指揮コースを作るという構想ですが、弦管打コース、声楽家コースを卒業した者2

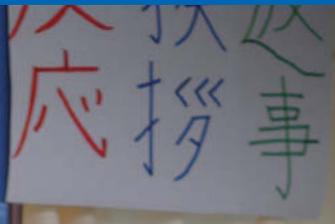
人が過去に研究生で指揮を学んでいたという事例があるんです。その2人のうち1人は、本学に指揮コースがないため、別の大学の指揮コースに入り直しました。もう1人は、本学卒業後指揮活動を実際にやっています。そういう学生が出てきたので、それだったらせっかくなのでしっかりしたものをやろうという構想があったんです。でも、遠藤先生が話されたように、実際指揮法を勉強できるようにしてもやはり少数精鋭ということになります。どこも指揮科のある学校では、多くても1学年で5人ほど、指揮コースがなくなってしまった学校もあるんですよ。ただ、東海エリアにおいては指揮科がある学校はなく、専門的に学べる場所は全国でもごくわずかです。ですので、そういうことを勉強できる場があることは意義深いことだなとは思っているんです。そこで学んだことというのは、しっかりと自分の中に蓄積されると思いますし、アピールできるポイントになるんじゃないかと思っています。

「カリキュラムだと編曲も面白いところですよ？」

遠藤：客員教授で来ていただく鈴木英史先生というのは、オーケストラの曲を吹奏楽用にアレンジするわけですが、例えばバイオリンパートを吹奏楽の楽器にそのまま割り当てるのではなく、一度、楽曲をすべて崩して吹奏楽の楽器の音域に合わせて再編成するような手法です。無理のない音が出るというか、響きやすいというか、吹奏楽をとってもよく理解されている先生で指導も素晴らしいし、ぜひにお願いしました。ポップス系のアレンジもできた方がいいと思うので、吹奏楽に関するポップスは、福井にある武生商業高校の植田薫先生にも講義をしてもらおうと予定しています。

好きなことを勉強すれば絶対スキルは上がります。そこでエネルギーを出してもらい、そのエネルギーをそのまま持って社会に出れば、それが一番理想だと思います。

依田：学生、一人ひとりが持っている熱量が違うと思うので、その人に合わせて、指揮者なら指揮者、リペアならリペアと、一人ひとりに合わせられるように、やっていけたら一番いいんじゃないかと思っています。



吹奏楽に
魅せられて



夏休み明けの高校。まだ暑さが残る湿った空気の中、校内をランニングするのは何部だろうか……。正門から入ったばかりのところではチアリーディング部が慎重に振り付けの確認をしている。残暑をものともしない高校



生たちの姿が清々しい。館内を案内してもらい、吹奏楽部の練習を少しだけ見せていただいた。さすが県大会で金賞受賞のバンドである。音もしっかり出ているし、取り組む姿も真剣そのもの。かといって厳しいだけの一辺倒ではなく、ふっと出るユーモアに笑みがこぼれる。指導者との信頼関係もしっかりしているようだ。前に立ち、テキパキと指示を出すのが今回の主役、片桐健輔さん。一宮市消防音楽隊に籍を置きながら、高校、刈谷市の市民バンド、自身の金管五重奏と八面六臂の大活躍。お仕事のすべてが、まさに吹奏楽。吹奏楽人生について伺った。

「通っていた小学校にマーチングバンドがあって、コンクールで入賞するような学校だったんです。4年生からバンドに入れるというんですが、入学したときからやってみたいなんて思っていました」初めての楽器はユーフォニアムを選択した。「おいしいところを持ってくんですよ。メロディーも吹く、オブリガート、対旋律っていうんですかね、全部いいところを持っていく。カッコいい楽器があるぞって感じです」幼い頃からピアノも習っていたそうで、音楽が好きでよく理解していたことを窺わせる。そこから2年間はユー



音大に行きたいとか進路をどうしようかと悩む高校生はたくさんいます。僕の同級生たちもみんなそうなんですけど、音大とか芸大を出たからといって全員が全員、音楽の道に進むわけでもありません。個人的には、普通の大学を出るとそれほど変わらないんじゃないかと思っています。特に僕自身先生方と接して感じるのは、音大や芸大の方が、普通の大学よりも人間関係とか礼儀とかそういうところはしっかりしていると思います。音大に行って、演奏家以外にもたくさん仕事があるということを知り、変わっていくのはとても普通なことだと思います。気負うことなく、音大や芸大に進めばいいと、どんどん動いていますよ。



Vol.91 NUA-OB

中部大学第一高等学校
音楽科非常勤講師
かりやプラスプロジェクト
トレーナー
一宮市消防音楽隊
Gaia Brass Quintet
各チューバ奏者

片桐健輔
(かたぎり けんすけ)



フォニアムを吹いていたが、そこからチューバへと転向する。「じつは、僕、小学生の頃すごく肥ってまして、先生に『片桐君、背も(横も)大きくなってきたし、でっかい楽器に行こうか』と誘われて、いわれるがまま小6からチューバへ変わりました(笑)」マーチングバンドのリーダーを務め大会にも出場するなど、現在へつながる活動はこのときから始まっている。

中学に入っても、もちろん吹奏楽部へ。今度は、サクスを希望した。「マーチングバンドだったので伴奏だけでも楽しかったんですが、中学では座って伴奏だけですよね。それだけではつまらないと思いサクスを希望したんです。チューバはもうやめだ。ところが、中学の顧問の先生が、僕が小学校のときからチューバを吹いていたことを知っていて『片桐君、チューバだったら1年生から大会に出られるよ〜』みたいな甘い誘惑がありまして、ハイ、やりますと結局チューバです」そこからは伴奏の面白さ、旋律を歌わせる面白さを感じるようになったという。音楽全体を支える低音パートの魅力に気が付き、ますます吹奏楽にのめり込んでいった。

高校も当然、吹奏楽部。今度は、迷わずチューバ。ただし、楽器に問題があった。「県立高校だったので予算が少なく、楽器があまりよくなかったんです。チューバもバットで殴ったのかというくらいへこんだのしかなくて……。そのときに、高校の先生が『君は吹けているから、楽器を買ったら』と勧めて下さったんです。たぶんその楽器ではこれ以上

上手くなれないから、いい楽器を使いなさい」と高校時代には、漠然と音楽の道に進みたいと思っていたが、プロの演奏家になることが自分にできるか、吹奏楽の指導者となるにはどうすればいいか、学校の先生になるのがいいのか、どう進んでいいのかわからず、もやもやとした心でいたという。そんなときに声をかけてくれたのも高校時代の顧問の先生だった。「片桐は、将来、どんなことがやりたいんだ。大学とかではなく、何をやりたいんだと聞いてくれたんです」吹奏楽を指導するようなことをやりたいと伝えた。高校の顧問には、音大に進学するため先生を紹介してもらい、その縁あって本学で教える柏田良典氏のレッスンを受けることになったという。

学生時代は、チューバを研鑽する傍ら、吹奏楽の指導への関心も一層強まった。「1年生のときに『吹奏楽指導研究』という授業があって履修しましたが、そこで小野川昭博先生(大阪音楽大学講師、昨年まで本学講師)に教わりまして、めちゃくちゃカッコいい人と思っただけです。自分は合奏に参加しつつ、スコアを用意して小野川先生の指揮の振り方とか教え方を自分で勉強しましたね」少しでも小野川氏の近くにいたいと考え、送迎を買って出た。毎週、西春駅から学校までの間をマイカーで送り迎えしたという。懇意になり、学校のこと演奏のことはもちろん、さまざまなことに助言を仰いだという。来年度から始まる、ウィンドアカデミーコースには、指揮や吹奏楽指導も含まれているが、心底、羨ましいと語る。「オー



1993年 愛知県生まれ
2015年 一宮市消防音楽隊チューバ奏者として所属
2016年 音楽学部弦管打コース卒業
学校法人中部大学 中部大学第一高等学校に採用

チューバの演奏と同時に、吹奏楽の指導を各地で行う。中部大学第一高校とは、本学在学中であった学生時代から指導を続け、2014年以降は例年愛知県大会に出場、2018年は学校としても初の県代表選考会への出場を果たす。

ケストラで振られている高谷光信先生の指揮法の授業も履修し、授業が空いていれば指揮法の授業に遊びに行ったりして高谷先生にもいろいろ教えていただきました。小野川先生は子供たちと接する現場の吹奏楽、高谷先生はプロを相手にした振り方、全然違う指揮者二人で、どちらもすごく勉強になりました」目的を持ち、貪欲に学んだ学生時代だった。

「自分が指導する立場になってみると、生徒がぐんと成長するタイミングというのがあるんです。コンクールの時期もそうですが、それぞれが頭をフル回転させてやっているんだと思います。そこでぐんと伸びるんです。それを見るのが本当に楽しいですよ」高校の吹奏楽では演ずるのは高校生たちだが、やはり自分も前に立ち彼らと一緒に音楽を作っている感覚があるという。音楽を作り出すことの魅力こそが、吹奏楽の魅力ではないかと話す。「吹奏楽のサウンドにはゴールがないんですよ。高校の全国大会でもそうですし、プロの吹奏楽団が増えてきているいろいろなバンドが本当にいろいろな音を出すのですが、これが絶対というものじゃありません。追及していても答えがないんです。サウンドは、まだまだ変わっていくと思います。しかも、吹奏楽にはクラシックもあればポップスもありロックもあり、演奏する音楽も多種多様です。やることもやりたいことも、たくさんある。ゴールが見えないところがめちゃくちゃ面白いですね」ますます吹奏楽の魅力に魅せられていることは、間違いなさそうだ。

2018年3月28日に行われた6重奏の演奏会「フランスに憧れて〜ピアノと木管五重奏のたのしみ〜」の広告の1枚



室内楽のタベ 2017 でブルーノクの6重奏曲を演奏

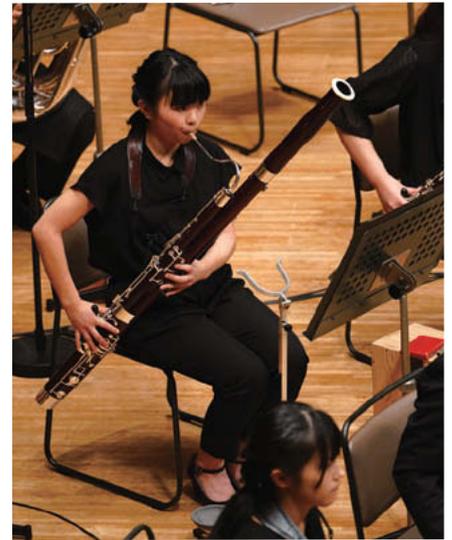


「フランスに憧れて」の演奏後に先輩方と撮影



ファゴットの魅力を知って欲しいんです

Vol.92
NUA-Student
岩谷莉奈
(いわたに りな)
音楽学部演奏学科
弦管打コース 3年生



今悩んでいることはリードですね。ダブルリードって自分で作るんですけど、試行錯誤中で安定しないんですよ。今週末に本番があって、来週再来週とオーディションがあって、その次の週は自分で受けたコンクールの本番があってみたいな。今、本番に追われる時期なのですごく心配です。

ー楽器を始めたのはいつ？

母親が子供に音楽をやらせたいという気持ちがあったようです。小学校に入るタイミングでピアノを習い始めました。三重県の鈴鹿なんですけど小学校のときにショッピングモールなどで白子高校の吹奏楽部の演奏を見かけるんですよ。それを聞きに行っちゃっていいなって。それで楽器をやりたいなって、中学校に入って吹奏楽部に入りました。最初はサクスを吹いていたんです。

ーファゴットはいつから？ 白子高校の吹奏楽コースなんだよね？

中学校を卒業する頃、白子高校に進学することが決まっています。白子高校の卒業演奏会というのがあるんですがそれを聞きに行っていたんです。そうしたら高校の顧問の先生に呼ばれて、「ファゴットやらない？」といわれて。それまでも同じ年に入学する子たちと練習する機会があったんですけど、私がやっていたテナーサクスは4人ぐらいなんです。サクスはそんなに要らないので、誰かがほかの楽器に回されるだろうなと思っていたら、私が声をかけられた(笑)。それで変わりました。

ーサクスのほうがやりたいなんてなかったの？

最初は未練があったんですけど、メロディーをやるより支えをするほうが好きだったので、テナーサクスもどちらかというとオブリガートが多い楽器だったので、下に行くことは苦じゃなかったんです。姉がいるのですが、バスクラリネットを吹いていて同じ木管低音かぁ、そこでちょっと渋りました(笑)

ー楽器は自分の？ 高いんでしょ？

そうですね。今年の春にやっと買ったんですけど、買うことにすごく迷ったんですよ。でも、先々、将来のことを考えたら買ったほうが良いと思い切りました。まずは楽器を選びに行って、分割で払うとしたら幾らくらいか、頭金がある場合とない場合と、いろんな支払いパターンを、楽器屋さんにご相談してたくさん考えてもらって、そうやって資料を集めて全部資料がそろった状態で、両親に相談しました。

その資料を集めてから話を切り出すまで、結構、時間がかかったんですよ(笑)

ーそんなにいろいろ考えたの！？

どうやって相談しようか、シナリオを考えましたよ。どうやって両親に説明したらいいのか、反対されないか、めっちゃ考えました。まず話を聞いてもらう雰囲気を作らなきゃいけないと思って、家に帰った時点で「話したいことがある」と宣言しご飯のあとに時間を作ってもらって、卒業しても楽器を続けたいと思っているという話をして、それを考えたら今のうち4年生からではなく3年生のうちから楽器があったほうが良いと。4年生にベストを持っていくなら今しかないという話をしました。そこから、自分に合うと思う楽器がいくらするのかと、楽器屋さんで考えていただいた頭金ありとなし、それから5年と4年半と4年という期間の支払いパターンで月々の返済額がいくらになるのか利子はいくらになるのか、そういう話をしました。利子のことは、両親のほうにわかっていますし、そこは完全に相談状態ですけど、私のバイト代で返済して、足りない分の頭金や返済のことはお願いしました。

ースゴイ！ 戦略家！！

じつは、大学に入るときにリサーチ不足だったのでその反省なんです。姉は、音大に行きたいのを反対されてわりとすぐに断念したんですけど、それを知っていたのずっといい出せなくて……。でも、師匠(依田先生)のレッスンを受けるたび揺らぎに揺らぎまくって、一度軽めに両親に音大に行きたいと話してみたら、父からもすごく反対されたんです。そのときが、リサーチ不足で、そのときの反省で今回の楽器の購入に生きてきました(笑)

ーじゃあ今もバイト代で返済してるんだ。卒業したらしっかりお金を稼げるようにならないと！

そうなんです。まだ3年生なのではっきりと決めてはないんですが、今のままバイトを掛け持ちしながらレッスンに行く時間を作りつつ働くか、講師登録をして音楽の先生をやりつつ指導に回るか、み

たいな道を考えています。じつは両親にも少し相談したのですが、30歳からは就職が難しくなるので30歳までに確実な道を決めなさいと、そこまでは挑戦していいよといわれてるんです。

ー先生になりたい？

学校の先生になりたいわけじゃないんですよ。部活の顧問とかに就くのではなく、もっと幅広くやれなかなと思っています。最近三重県の高校に指導にいらっているんですけど、ファゴットって本数が少なく指導者があまりなくてとてもかわいそうなんです。自分でリードを調整できる楽器なのにやり方がわからない。複雑な仕組みの楽器で、楽器に合わせて正規の指使いではなく、変えなきゃいけないところがあるんです。そうしないと音程が合わないこともすごく多いんですが、それを知らないから正規の指使いだとか、先輩からの伝統で間違っって伝わってきているような指を使っていたりとか、そんな感じなんです。そうした中高生たちに教えていきたいという気持ちがあります。吹奏楽もなんですが、ファゴットの指導していきたいですね。

ー演奏家よりも指導者？

プレーヤーではないですね。自分で演奏するよりは、後進の指導にあたりたいと思ってます。もともと教えるのが好きなこともありますし、自分がプロになってヒイヒイいながら曲をさらってる姿を想像するよりは、三重県の子たちに教えている姿のほうが自分で想像しやすかったというのがありますね。今、教えに行っている子たちを見ていて、この子たち以外の子にももっとファゴットを続けて欲しいし、楽しいと思って欲しいんです。

ー卒業してからの給料が心配だなあ……

やりたいことをやるためには頑張るしかないなと。あがくしかないなと思ってます。高校の顧問の先生が、三重県全体を通してのいろいろな企画に携わっているので、教育実習に行くときに先生にお話を活動していかうと思っています。まずは顔を売ってきますよ！

News & ニュース&トピックス Topics

音楽領域

名古屋芸術大学 ウィンドオーケストラ 第37回定期演奏会を 行いました

2018年9月16日(日)、豊田市コンサートホールにて、本学ウィンドオーケストラの第37回定期演奏会を行いました。本学ウィンドオーケストラは、管楽合奏をより充実させるために結成され、1982年から例年定期演奏会を開催、これまで多くの公的行事などに出演し学生たちの音楽技術の向上と音楽による地

域貢献に尽力してきました。

今回の定期演奏会では、これまで指導に当たっていた竹内雅一教授に加え、本年度より専任教員として就任しました遠藤宏幸准教授の二人による指揮での公演となりました。

前半は、サモン・ザ・ヒーロー / J.ウィリアムズ、舞踏組曲 / J.ホロヴィッツ、アルメニアンダンス パート I / A.リード、後半は、オセロ / A.リード、クラリネット協奏曲 第二番 作品74より第二楽章 / C.M.v.ウェーバー、シダス / T.ドスの6曲が演奏されました。クラリネット協奏曲では、竹内教授の独奏があり、会場はうっとりとし聴きほられていました。

アンコールは、2曲。竹内教授の指揮で、ヤン・ヴァン・デル・ロースト名誉教授作曲のカンタベリー・コラール、最後は遠藤准教授の指揮で76本のトロンボーン/メレディス・



- 1 76本のトロンボーン/メレディス・ウィルソン」の演奏
- 2 竹内雅一教授の指揮による演奏
- 3 遠藤宏幸准教授の指揮による演奏
- 4 二人の指揮者は握手で挨拶
- 5 舞台裏にて



ウィルソンが演奏されました。8名のトロンボーン奏者が舞台の前面に立ち熱演、大いに盛り上がりました。

ホールに詰めかけた来場者からは盛大な拍手が送られ、いつまでも鳴り止みませんでした。

音楽領域

本学吹奏楽クラブによる サマーコンサート 開催しました

2018年8月18日(土)、本学東キャンパス3号館ホールにて、名古屋芸術大学吹奏楽クラブによるサマーコンサートを開催しました。

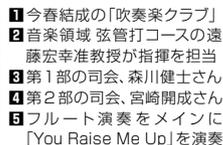
本コンサートは、芸術教養領域、子ども発達学科のオープンキャンパス内で行われたもので、訪れた親子連れや近隣の方々が、今年の春結成されたばかりの若々しいサウンドを楽しみました。

「吹奏楽クラブ」は、本学が特別指定クラブに指定したもので、部員となる対象はすべての学部・領域の学生となります。

音楽領域で授業として開講している吹奏楽の授業とは異なり、自分たちが思うようにのびのびと活動ができることを目的としています。指導は本学音楽領域に在籍するプロの音楽家の指導陣が担当し、充実した練習環境で、高い演奏レベルを目指し、社会貢献活動を推進します。今回の指揮は、音楽領域弦管打コースの遠藤宏幸准教授が務めました。

第1部の司会は、吹奏楽クラブ部長で音楽領域フルート専攻3年の森川健士さんが担当。プログラムは「行進曲『マリーン・シティ』2012」「リユートのための古風な舞曲とアリアよりI、II」「ダットン人の踊り」が演奏されました。

休憩を挟み、第2部の司会はテ



ナーサクスの担当の本学3年宮崎開成さんが担当。「ユーロビート・ディズニー・メドレー」「少年時代」「サウンド・オブ・ミュージック メドレー」、そして最後は、第1部でも司会を担当した森川健士さんのフルート演奏をメインに「You Raise Me Up」が演奏されました。

そして、アンコールとして「オーバ

ー・ザ・レインボー」が演奏され、終了後には、会場は暖かい拍手に包まれました。

最後に、遠藤准教授は、「学内の各領域の学生が吹奏楽クラブの活動を通して交流し、将来新たな形になって生まれてくることに期待します。」と締めくくり、コンサートは終了しました。

音楽領域

サウンドメディア・ コンポジションコース公開講座 「マイクロホンの世界」を 開催しました

2018年6月21日(木)、本学東キャンパス2号館大アンサンブル室にて、オーディオテクニカの秋野裕氏とデビット・ワルタ氏を招き、公開講座「マイクロホンの世界」が開催されました。本セミナーは、公開講座としてサウンドメディアコンポジションコースが主催し、本学学生、及び本コース卒業生、またオーディオの世界で活躍されるプロフェッショナルの方に参加をいただきました。

特別講師の秋野裕氏は、1981年、㈱オーディオテクニカに25歳で入

社し、定年退職をするまでに、同社のすべてのマイクの開発に関わり、社内でも多くの特許を取得したマイクロホンのスペシャリストです。

オーディオテクニカの40シリーズ全ての開発者である秋野氏より、マイクロホンの発明から初期のマイクについて、また、音圧とマイクロホンの関係、マイクロホンの動作原理について、さらに具体的にはマイクの命である振動板と、マイク内の電気回路について、どのようなコンセプトでマイクロホンを作るのか?そして何が特徴なのか?など専門的な内容が説明されました。

そして、秋野氏がオーディオテクニカ社で行った開発や設計について触れられ、自分の考えに基づいたマイクロホンを商品化するにあた



- 1 セミナーの様子
- 2 今回の特別講師、元㈱オーディオテクニカの秋野裕氏
- 3 秋野氏によるマイクロホン全般についての講座
- 4 デビット・ワルタ氏がマイクの違いを説明
- 5 マイクの違いを体感するため、実際に比較
- 6 比較のための演奏は、平内舞さん(ボーカル)、小田智之さん(ピアノ)が担当
- 7 仲井隆さんによる弾き語り演奏での比較



り、世界中にあるマイクロホンの企業に対して、自社の製造方法を守るために、日本では608件、アメリカでは238件の特許を取得した。と

いう説明からも、秋野氏がマイクロホンの業界に与えた影響は非常に大きなものだと感じさせられました。更に秋野氏は50歳の時に「振動

板のないマイクロホンを作る」という世界初の技術へのチャレンジを開始しました。振動板はマイクロホンに必ず搭載されている重要な部品ですが、その振動板を持たないマイクロホンという、今までの既成概念を覆す挑戦のために、日々研究を続けられています。62歳になった今でも、世界初に挑戦する秋野氏の姿勢を前に、参加する方々も心動かされました。

その後、オーディオテクニカのグローバル技術支援担当デビット・ワルタ氏が本学学生の演奏によるマイク比較を行いました。現在、(株)オーディオテクニカで、技術サポートを行いながら、学生向けのマイクロホンワークショップなどを担当するワルタ氏は、流暢な日本語でマイクの違いについて説明され、参加者が感覚的にマイクの違いを理解できるように、マイクの比較を行いました。

その方法としては、「マイクが異なることによって音楽の聴え方がどのように変化するか」という実験のため、本学学生の、平内舞さんがボーカル、小田智之さんがピアノを演奏し、異なるマイクでPAを行い、参加者が印象の違いを比較していました。

ボーカルでは、3つの違うマイクを使用し、ピアノでは、2つの異なるマイクを使用した結果、マイク

によって「あたたかさ」や「明るさ」などの違いが分かり、参加者の皆様も感覚的にマイクの違いを感じ取る事ができ、非常にわかりやすい講義となりました。

この後、仲井陸さんによるギターとボーカルでの弾き語り演奏で比較を行いました。

最後には、3名のアンサンブルで演奏し、非常に盛り上がりみせる中、公開講座が終了しました。

美術領域 デザイン領域
2018年度
前期交換留学生作品展
を行いました

2018年7月6日(金)~11日(水)、本学西キャンパスA&Dセンターのギャラリーにて、本年度前期に来訪した交換留学生の作品展「2018年度前期交換留学生作品展」を開催しました。

この作品展では、姉妹提携校イギリスのブライトン大学から2名、同じくイギリスのUCA芸術大学から2名、韓国の慶南大学から2名、

合計6名の留学生の作品が展示されました。

開催にあたり、開催初日にオープニングレセプションが行われ、水内智英国際交流センター長の挨拶がありました。続いて留学生一人一人が挨拶に立ち、本学に留学して感じた事や出展作品のコンセプト、作品に込めた思いなどを語ってくれました。そして水内センター長の乾杯の音頭よりレセプションがスタートしました。

多くの学生や教職員が、展示されている作品を鑑賞し、作品についての感想を、留学生を囲み語りあって



- 1 会場には留学生の作品が展示されました
- 2 水内智英国際交流センター長に続き、留学生の挨拶
- 3 レセプションでは、展示されている作品の鑑賞や、留学生との交流が行われていました
- 4 学生の高橋凛さん、留学生のEvaさん、上野英里さんによるパフォーマンス「Three problems -mind your head-」

いました。

そして16時より、学生の高橋凛さん、留学生のEvaさん、上野英里さんによるパフォーマンス「Three problems -mind your head-」が

studioにて行われました。

2018年度 前期交換留学生作品展は、6日間の期間中、大勢の来場者でにぎわいを見せ終了しました。

美術領域 デザイン領域
みんなが芸大生になる日
「一日芸大生」を
開催しました

2018年7月29日(日)、夏休みの恒例行事「一日芸大生」を開催しました。これは、小学生から参加することのできる体験講座で、本学の設備・施設を利用して創作活動を行い、芸大生になった気分でキャンパスライフを体験していただく催しです。美術領域、デザイン領域、合わせて14の講座が設けられ、受講者はそれぞれの講座で、思う存分創作に励みました。

会場となった西キャンパスには、始業時間に合わせて子どもたちや

保護者の皆さんが集い、受付が始まると同時に、多くの参加者が受付ブースに集まりました。

10時からの入学式では、デザイン領域主任 駒井先生より「デザインというものは、誰かのために考えて創作することですが、今日は、自分のために、誰かのためならばその誰かが喜ぶことを考えて作ってみて下さい。」との言葉がありました。

引き続き、各講座の担当講師とチューターの紹介、スケジュールの説明が行われ、参加者は受講コースごとに別れて教室に移動しました。

授業の合間のランチタイムでは、緊張気味だった参加者もすっかり仲良くなり、講師やチューターから大学のことや授業の話聞くなど、



楽しそうな時間が流れていました。

午後1時30分からは、保護者の方を対象にした見学ツアーが開催

され、担当講師による大学の説明や制作現場の見学が行われました。暑い中の移動となりましたが、講師

Column NUA No.42

「身近なものに改めて出会う
—写真絵本の楽しみ—

芸術学部芸術学科 芸術教養領域 准教授 早川知江

絵本が好きで、芸術教養領域ウェブサイト(https://www.nua-la.jp/)の教職員エッセイコーナー「リベラルアーツエッセイ」でも、絵本に関するエッセイを何本か書かせていただきました。私が絵本の魅力を知ったのはむしろ大人になってからで、大学院で専攻した言語理論がたまたま画像分析も含む理論だったため、それを当てはめると、自

分が主観的に「面白い」と思った絵本の効果や技法を、ことばで客観的に説明できるのが嬉しくて、もう3年間、学生と一緒に絵本をつくる授業を担当させてもらっています。絵本の特色や、絵本ならではの技法に関し、学生の理解と吸収の速さは目を瞠めるものがあり、毎回、できあがる作品のクオリティの高さに驚かされています。

でも、今日は授業やお勉強の話は置いておき、私が個人的にくりがえし楽しんでいる、一冊の写真絵本を紹介したいと思います。

1953年、米コネチカット州生まれのフリーカメラマン、ウォルター・ウィックによる絵本「ひとしず

くの水(原題:A Drop of Water)』(あすなる書房、1998年)は、水のさまざまな形態(水、氷、水蒸気)や、水にまつわる自然現象(表面張力や毛细管現象、光の屈折など)を写真でとらえ、子どものための解説を加えた科学絵本です。科学読み物として面白いのはもちろんのこと、自然の驚異や美しさを再発見させてくれる素晴らしい1冊です。

鮮明で精密な写真によって大きくくっきりと写しだされた水滴の輝きや、その完璧なまるみ(よく見ると、中には世界が逆さまにとじこめられています)。アイスキューブの中の透きとおる空気の粒。蜘蛛の巣にきらめく露のしずく。それらがシんと静止

の話に熱心に耳を傾けたり、教室の隅に置いてある学生たちの作品に感心する姿が見受けられました。午後の授業になると制作にも慣

れてきて、参加者たちは一層集中して制作に没頭していました。授業の終了後には、この日に制作した作品などを持ち寄り、卒業

式が行われました。それぞれ、作品を誇らしそうに手にしている姿が印象的でした。各コースからの実施報告の後、

参加者全員に卒業証書が手渡され、一日芸大生は終了となりました。来年の一日芸大生にもぜひご参加ください。

美術領域 **デザイン領域**
国際交流
「子ども芸術教室」を開催しました

2018年7月7日(日)、本学西キャンパスG棟202教室にて、国際交流「子ども芸術教室」を行いました。これは小学生を対象に、本学の留学生の指導により学内の彫刻等をモチーフに絵画制作し、その交流を通じて子どもたちに外国を身近に感じてもらいながら、楽しく国際交流を行う芸術教室です。はじめに、デザイン領域の和田先生から挨拶がありました。子供

達に芸術作品に接してもらい、生活の中に美しいものを感じる力を芽生えさせ、都市景観の大切さに気づいてもらえるきっかけになればと伝えられました。子供たちと留学生達が、学内を散策し、描きたい風景のある場所を探し、好きな風景が見つかった子から、絵を描きはじめます。言葉は通じなくても、絵を描く事を通じて、コミュニケーションが取れていました。絵を描き終わった子ども達は教室に戻り、外で描いたスケッチに色を塗りはじめます。絵の具で色を塗る子もいれば、クレヨンを削り、色



1 始まりは、デザイン領域の和田先生の挨拶から
 2 講師となる留学生の皆さんは、一人一人日本語で挨拶
 3 風景を探して、校内を散策
 4 描いた絵に色付け開始
 5 作品と一緒に記念撮影

をつける子もいます。午後の授業になると、制作にも慣れてきて、参加者たちは一層集中して制作に没頭し、一人で何枚も作る子もいました。子どもたちにとって、普段は馴染

みのない国の留学生と、同じ時間と場所を共有して、国や言葉が違って仲良くできるという体験をすることにより、世界に興味を持つ良い機会になりました。

名古屋芸大グループ校特集
名古屋音楽学校

名古屋音楽学校では通常レッスンの他に一年を通して様々なイベントを実施しています。その中より主だったイベントを紹介したいと思います。4月24日(火)には日本特殊陶業市民会館ビレッジホールにおいて、第86回日本音楽コンクール受賞記念演奏会を名古屋音楽学校・毎日新聞社・セントラル愛知交響楽団の共催により開催いたしました。松尾葉子先生指揮の下セントラル愛知交響楽団伴奏により、若年17歳にしてヴァイオリン部門1位に輝いた大関万結さん、すでにプロとして活躍されているホルン部門1位の濱地宗さん、地元愛知県出身チェロ部門1位の香月麗さん、応募者219名と激戦のピアノ部門1位を獲得した吉見友貴さんらをソリストとして迎

え素晴らしい演奏をご披露いただきました。来年は4月17日(水)愛知県芸術劇場コンサートホールでの開催を予定しています。4月下旬には提携しているパリ・エコール・ノルマル音楽院よりマーク・アントワーン・バンジョン副学院長を迎え、留学オーディションとディプロマ一次試験を実施しました。留学オーディションでは5名が合格となり10月からフランスの本校にて研鑽を積みます。ディプロマ一次試験に合格した生徒達9名は6月に渡仏し最終試験に臨みました。4段階の最終試験では5名中5名が合格しましたが、5段階の最終試験では4名中1名の合格と大変厳しい結果となりました。8月にはダルクローズ・リトミック夏期セミナー2018を開催いたしました。このセミナーは春期と夏期の年2回開催しており、日本=ダルクローズ協会の発行する国際免許取

得に向け北海道から沖縄まで日本各地より参加いただいております。春期セミナーには、カナダ・ラバル大学にて長年にわたり指導され、国際的にもこの世界では著名なルイズ・マシュー先生を招聘し充実したセミナーになりました。来年は、3月29日(金)から3月31日(日)に春期セミナー、8月9日(金)から8月11日(日)に夏期セミナーを予定しております。ひとつ残念なお知らせとしては、長年にわたり親しまれてきたポピュラー部門につきまして、レッスン会

場としていたコートダジュール広小路栄店の閉店に伴い、色々と検討を重ねましたが継続する事が困難と判断し2018年5月末をもちましてやむを得ず閉鎖する事といたしました。最後に名古屋音楽学校は創立70周年を迎える事ができました。これまでに諸先輩方が築いてこられた伝統を継承しながらも、時代の変化に即し多様化するニーズに応え皆様に愛される名古屋音楽学校になるよう努めてまいります。これからも変わらぬご愛顧をどうぞよろしくお願い申し上げます。



第86回日本音楽コンクール受賞記念演奏会
 左よりホルン：濱地宗さん、ピアノ：吉見友貴さん、チェロ：香月麗さん、バイオリン：大関万結さん



ダルクローズリトミック春期セミナー
 ルイズ・マシュー先生

した完璧な姿で切り取られ、身近なものの中にある美しさを改めて教えてくれます。なかでも印象的なのが、ページ全体に大きく引き延ばされた雪の結晶の写真。放射状に伸びた透明な枝が完全な六角形を形づくり、銀細工がレース編みのような、複雑で美しい幾何学模様を描いています。中谷宇吉郎博士の有名なことば、「雪は天から送られた手紙である」を引くまでもなく、あつという間に溶けて消えてしまう雪のひとつひとつがすべてに、こんなに精緻で繊細な意匠を凝らしてくれる自然の、惜しげもない趣向の濃やかさを改めて思わずにはいられません。ウィリアム・サローヤンの小説「パパ・ユーア クレイジ

ー」の中に、父親が息子に対し、ボタンでも貝でも何でもいいから、毎日1つのもをよく観察すべきだと提案する場面があります。そのときの台詞、「詳しく観察する価値のないものなんてこの世に存在しないんだからね」「アートとはそれなのさ。ありふれた物を、それらが今まで一度も見られたことがなかったかのごとく見つめるということなのさ」。まさにこのことばを実感する1冊です。絵本でも本でも、よいものを読んだ後には、世界がいままでより鮮やかに、くっきりと見えます。樹の葉の形、花びらの艶、空の色——もうすでに見慣れているはずのものに美しさに、もう一度出会いたくなったら、ぜひ読んでみてほしい作品です。





マスター



アーティスト

【第42回】

＜思うように生きる＞



遠藤青年の指揮デビュー：1991年8月 第29回岐阜県吹奏楽コンクール<岐阜・美濃・西濃地区大会>

遠藤宏幸

(えんどう ひろゆき)

音楽領域 弦管打コース
准教授

アリオン・サクソフォン・カルテット、トリオ・ウイステリア各メンバー
ウインドアンサンブル GAJA (ガヤ) 代表
ユニータ・デラ・サククス代表
ルロウプラスオルケスター (小牧市) 常任指揮者

| | | | |
|-------|---|----------|--------------------------------|
| 1973年 | 岐阜県生まれ | 2003、04年 | 名古屋 ザ・コンサートホールリサイタル |
| 1996年 | 東京コンセルヴァトアール尚美 (現・尚美ミュージックカレッジ専門学校) デイブロマコースを修了 | 2013年 | 名古屋 ザ・コンサートホールリサイタル |
| | | 2014年 | アリオン・サクソフォン・カルテットファーストアルバムリリース |
| 2001年 | 岐阜メルサホールにてソロリサイタル | | |

サクソフォンを石渡悠史、岩本伸一、雲井雅人の各氏に師事、室内楽を、服部吉之、服部真理子の両氏に師事、指揮法を橋本久喜氏に師事。サクソフォン奏者として活動をしている傍ら、吹奏楽指導者としても多くのアマチュアバンドを指導する。



研究室にお伺いした。目に入ってきたのは、岡本太郎の「太陽の塔」の模型。イームズのシェルチェアがあるかと思えば、レゴのアーキテクチャーシリーズ ル・コルビュジエのサヴォア邸も。取材相手は、デザインの先生だったかと思いを起こしてしまいそうな小物たち。「割りと一つのことに集中するタイプなんです。何でもそうなんです、趣味ができれば、その方面にわっと行っちゃう。飽きてくるとすぐ辞めるんですけど、サククスだけは長く続いています(笑)」 屈託のない笑顔で話す。

サククスを始めたのは中学になってから。当時放送されていたテレビドラマの影響だと

いう。「『ポニーテールは振り向かない』というドラマがあって、少年院から出てきてバンドをやりながら更生していくみたいな話なんです。主人公はドラムなんですけど、メンバーにサククスがいて、カッコいいなって(爆笑)」 同じ頃、ラグビーを題材にしたドラマもあり、サククスとラグビー、どちらにしようか迷ったというから中学生らしいではないか。誰でも楽器を始める動機なんてそんなもんですよ、といいながら快活に笑う。

興味があることに熱中する性格は、サククスに向かい、吹奏楽に向かった。事情があって中学の一時期、吹奏楽を離れるが、高校では再び吹奏楽部に入学しサククスを吹いた。部活の中ではリーダーシップを発揮し、高校2年で部長になる。通常なら、進学のため3年生は部活を引退するものだが、3年になっても部活も部長も継続。新しいことにチャレ



ンジしたかったという。「まだ新しく、それほど歴史のある部活じゃなかったんですよ。僕が2年間続けてやれば、次の年からは3年生が部長になるだろうと。何か、変えていきかけたんですよ」 指揮者としてのデビューも高校のときだった。2年のときは、音大出身で指導に来ていた楽器店の方に頼んでいたが、次の年は都合が付かずコンクールの指揮ができないという。「じゃあ、自分でやろうかなと、軽い気持ちです。何も考えていなかったですね、怖いものなしで。自分では、うちの学校、わりとイケてるんじゃないって、それくらいのことを思っていましたね。コンクールでは、地区大会で銅賞だったんですけど(笑)」

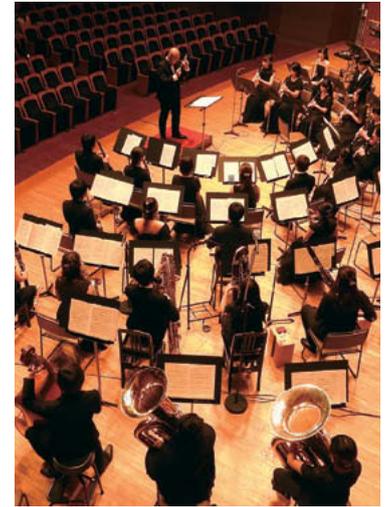
この経験が、自分の楽器サククスの研鑽とともに指揮法も学びたい、という気持ちにつながった。専門学校に進むが、その中でサククスと同時に指揮法も学び、早くから吹奏楽の指導に当たった。「僕は演奏者としてバンドに参加して授業を受けてますよね。そこで先生たちからバンドに指示されたことを、フィードバックして指導する場所で伝えまし



アリオン・サクソフォン・カルテット「アリオンの琴歌」
Arion's Harp
for Saxophone Quartet



「音楽以外で自分の力を発揮できることがあれば、いつでも代わる準備はあると自分では思っているんです。でも、そんなものはおいそれと見つかるものではないので、そのまま来てますね。いろいろなものに興味を持って生きているつもりでいます」



名古屋芸術大学ウインドオーケストラ第37回定期演奏会より「アルメニアダンス パートI」
指揮：遠藤宏幸



2018年7月 第3回かかみの音楽演奏会にて。「市内全8中学校吹奏楽部による演奏会で指揮を振りました」



2018年6月ウインドアンサンブルGAJA第3回演奏会にて



「指導するときは、できるだけ自分たちで考えて音楽作りをしてもらいたいと思っています」

た、さも自分の言葉のようにです。でも、そういう場所があるということがすごく大事だなと。このことが自分の成長につながっていると思います」

サクソフォンという楽器は、弦楽オーケストラにパートはない。曲により、編成に加わることはあるが、常設オーケストラの構成員にはなれない。オケマンになることができないため、ミュージシャンとして続けていくためには、自分で考えて、何かをやっていくことが必然である。こうした事情もあり、サクソフォン奏者たちは、他の楽器とは異なる考え方や行動力を持っているように感じることもある。「僕は、プロの演奏家とアマチュアの差を収入の手段が違うだけ、と考えています。僕自身、以前、短大で教えていた頃は、忙しくて演奏活動が思うようにできなかったんです。そのとき、自分は仕事を持って休みや仕事の合間に演奏しているアマチュアの方々とやっていることがなんら変わらないと気が付いたんです。技量の差じゃないんですよ。アマチ

ュアの方が、こんな感覚を持ってくれば、逆に同じようなことが起こるなど。ですから、一般の方々、他の仕事を持っている方が、ちゃんと芸術活動ができる環境、そういった環境作りが一番やりたいことなのかもしれません。プロとアマチュアのボーダーなんてありませんよ」 プロの演奏家としてやっていくためには、自分の専門以外にも興味の幅を広げ、なにか得意なことを増やすことが重要だという。サクソフォンと吹奏楽の指導、まさに、話すとおりの2つを行き来しながらの活動といえよう。「学生たちには、実際にプレイヤーとしてやっていきたいのなら、逆にそれ以外の能力が必要だといっているんです。例えば、デザインのことを知っていれば自分でチラシを作ることもできますし、それができないかできないかで全然違います。僕の場合は、楽器ができる、吹奏楽の指導もできる、マネジメントのようなことも知っているということですが、人によりいろいろな可能性があると思います。多様性が大事ですね」

「本来は、音大や芸大でダブルスクールみたいなことになった方がいいと思っています。一般大学と芸術大学、ボーダレスで幅広く学べる環境になればいいと思うんです」



「ジャズの人たちって一般的な仕事をしながら、夜、ライブ活動をやったりする人がいます。プロフェッショナルと変わらないですね。クラシックも同じようにできるようにしてほしいのかなと思っています」

「吹奏楽のコンクールを否定的に捉える人もいますが、それでもやっぱり魅力がありますよ。一つの目標に全員で向かっていくこと。中高生は年ごとにメンバーが代わりますが、一般バンドは長く同じメンバーで作り上げていく魅力がありますね」 自分の好きなことに正直に生きることが理想だと語った。岡本太郎は、職業を問われると「職業は人間」と答えていたそうだが、遠藤氏はこの言葉に共感し、自分の姿をこの考えに重ねる。自分もそうして生きてきたからこそ、誰もがそうに生きて欲しい。そのために自分ではできることをやっていきたい。「吹奏楽は熱い」、その熱を感じさせてくれた。

教職員著作の出版物のご紹介です。
(編集期限までに報告されたもの)



■大内孝夫著
『音大卒』は武器になる
発行/ヤマハミュージックメディア



■大内孝夫著
『音楽教室の経営塾』
発行/音楽之友社



2018年度 オープンキャンパス日程

- 11月4日(日) 10:00~16:00
※ミニオープンキャンパス
全学部 (芸大祭と同時開催)
- 12月1日(土) 10:00~16:00
芸術教養領域
- 2019年
3月2日(土) 10:00~16:00
全学部

アート&デザインセンター 2018年度展覧会スケジュール(予定)

- | | | |
|--------------------------------------|---|-----|
| 11/ 2(金)~11/14(水) | ●デザイン領域 企画展「ヨーロッパ自動車人生活」 | 企画展 |
| 11/16(金)~11/21(水) | ●MCDデパートメント2018 | |
| 11/23(金)~11/28(水) | ●大学院レベルの交流展(仮) | |
| 11/30(金)~12/ 5(水) | ●メディアデザインコース展 | |
| 12/ 7(金)~12/12(水) | ●こどもの空間 絵本と家具 ●2018年度 後期交換留学生作品展 | |
| 12/14(金)~12/19(水) | ●洋画2コース2年3年生 選抜展(仮) | |
| 1/ 4(金)~ 1/ 9(水) | ●アートクリエイターコース 陶芸・ガラスクラス 2・3年生合同展覧会「工芸展」 | |
| 1/11(金)~ 1/16(水) | ●日本画3年作品展 | |
| 1/18(金)~ 1/23(水) | ●幼稚園児たちのゲイジツ ●Hand hospice 医療と美術2018 | |
| 2/ 1(金)、2/ 2(土) 2/ 7(木)、2/ 8(金) | ●大学院1年研究報告会公開展示 | |
| 2/16(土)~ 3/ 3(日) | ●第46回名古屋芸術大学卒業制作展・ 第23回名古屋芸術大学大学院修了制作展 | |
| 3/17(日)、3/21(祝・木) 3/23(土)、3/24(日) | ●子どもデザインだいがく展 | |



※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
[入場無料] どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先 / (0568) 24-0325
Open/12:15~18:00 (最終日は17:00まで)
日曜休館

2018年度 音楽領域演奏会スケジュール(予定)

- | | | | |
|-----------|---|--|--|
| 11月 | <p>第41回定期演奏会 日時/2018年11月8日(木) 18:00開演 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール 入場料/無料(全自由席)</p> <p>室内楽の夕べ 2018(第一夜) 日時/2018年11月27日(火) 17:30開演 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール 入場料/無料(全自由席)</p> | 3月 | <p>ピアノのしらべ 第23回 春のコンサート 日時/2019年3月1日(金) 17:30開演 会場/熱田文化小劇場 入場料/無料(全自由席)</p> <p>第46回卒業演奏会 日時/2019年3月7日(木) 17:00開演 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール 入場料/無料(全自由席)</p> <p>ジャズポップスコース卒業演奏会 日時/2019年3月9日(土) 15:00開演 会場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂 入場料/無料(全自由席)整理券なし</p> <p>第21回大学院音楽研究科修了演奏会 日時/2019年3月10日(日) 15:00開演 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール 入場料/無料(全自由席)</p> <p>オペラ公演 喜歌劇「メリー・ウィドウ」 日時/2019年3月16日(土)・17日(日) 開演時間未定 会場/西文化小劇場 入場料/未定</p> |
| 12月 | <p>室内楽の夕べ 2018(第二夜) 日時/2018年12月1日(土) 15:00開演 会場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂 入場料/無料(全自由席)</p> <p>Earth Echo 電子オルガン第21回定期演奏会 日時/2018年12月6日(木) 18:30開演 会場/熱田文化小劇場 入場料/無料(全自由席)</p> <p>オーケストラ第36回定期演奏会 日時/2018年12月12日(水) 18:30開演 会場/愛知県芸術劇場コンサートホール 入場料/一般500円・大学生以下無料</p> | | |
| [2019年]2月 | <p>研究生修了演奏会 日時/2019年2月7日(木) 18:00開演 会場/熱田文化小劇場 入場料/無料(全自由席)</p> <p>第17回 歌曲の夕べ 日時/2019年2月8日(金) 18:30開演 会場/熱田文化小劇場 入場料/無料(全自由席)</p> <p>大学院音楽研究科特別演奏会 日時/2019年2月9日(土) 14:00開演 会場/名古屋芸術大学東キャンパス 音楽講堂 入場料/無料(全自由席)</p> <p>Kaleidoscope2019 日時/2019年2月16日(土) 16:00開演 会場/名古屋芸術大学東キャンパス 2号館 3F 入場料/無料(全自由席)</p> | <p>※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。</p> <p>●お問合せ先 名古屋芸術大学 演奏課 Tel. 0568-24-5141</p> <p>チケットお取り扱い場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ●名古屋芸術大学 演奏課 Tel. 0568-24-5141 ●名古屋音楽学校 Tel. 052-973-3456 ●愛知芸術文化センターB2Fプレイガイド Tel. 052-972-0430 ●ヤマハミュージック名古屋支店プレイガイド Tel. 052-201-5152 ●カワイ名古屋 Tel. 052-962-3939 <p>※一部取り扱いのない公演がございます。</p> | |



表紙の写真
名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ 第37回定期演奏会
(豊田市コンサートホール)



「名古屋芸大
グループ通信」
ウェブサイトを
QRコードで
見てください

発行:名古屋芸術大学
企画・編集:広報企画部
デザイン・協力:くまな工房一社
印刷:際クイックス
発行日:2018年10月31日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp

